

(平成21年7月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>7月期の野菜の入荷状況は、全国的な長雨と日照不足による作柄の悪化で、根菜類を中心に多くの品目で入荷の減少が見られ、野菜全体の入荷量は前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は、不況による需要の低迷から葉菜類が単価安となったものの、根菜類など多くの品目では全国的な品薄状態から単価高で推移し、野菜全体としては前年同期を5%上回った。</p> <p>品目別には、長大根、西洋にんじん、きゅうり、なす、ばれいしょが入荷減の単価高、はくさいが入荷増の単価安となり、キャベツが入荷減の単価安、ほうれんそう、レタスが入荷減の単価前年並みとなった。また、とまとが入荷前年並みの単価高、ピーマンが入荷前年並みの単価安となり、玉葱は入荷増の単価高となつた。</p> <p>根菜類は、入荷が14%減少し、価格は16%高となった。          葉菜類は、入荷が3%減少し、価格は6%安となった。          果菜類は、入荷が6%減少し、価格は8%高となった。          土物類は、入荷が前年並みで、価格は24%高となった。</p>
果 実	<p>7月期の果実の入荷状況は、5~6月の好天による前進出荷や当月の悪天候から入荷減となった品目が多く、果実全体の入荷量は前年同期を16%下回った。</p> <p>価格は、入荷量が大きく減少したにもかかわらず、不況による需要の低迷から前年並みとなった。</p> <p>品目別には、ハウスみかん、アンデスマロンが入荷減の単価高、桃、大玉スイカが入荷減の単価安となり、デラウェア、アールスマロンが入荷前年並みの単価安となった。また、ふじりんごは入荷減の単価前年並みとなった。</p> <p>柑橘類は、入荷が23%減少し、価格は4%高となった。          りんご類は、入荷が5%減少し、価格は5%安となった。          桃は、入荷が8%減少し、価格は5%安となった。          ぶどう類は、入荷が8%増加し、価格は9%安となった。          メロン類は、入荷が20%減少し、価格は6%高となった。          スイカ類は、入荷が22%減少し、価格は16%安となった。</p>

主要品目(野菜)	市況の概況
<b>【根菜類】</b> 長大根	北海道を中心に、青森県、岡山県からの入荷。 主力の北海道、青森では6月から続く長雨と日照不足によって作柄が悪く、入荷量は前年同期を16%下回った。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を33%上回った。
西洋人参	北海道を中心に、青森県、長崎県、和歌山県、兵庫県からの入荷。 主力の北海道、青森では6月から続く長雨と日照不足によって作柄が悪く、入荷量は前年同期を14%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を14%上回った。
<b>【葉菜類】</b> はくさい	長野県を中心に、群馬県、北海道、滋賀県からの入荷。 主力の長野県では長雨と日照不足によって作柄は悪かったものの、中央集散機能の発揮により、入荷量は前年同期を3%上回った。 価格は、不況による漬物需要等の低迷と、悪天候による品質低下により、前年同期を14%下回った。
キャベツ	群馬県、長崎県を中心に、茨城県、滋賀県、北海道からの入荷。 各産地とも長雨と日照不足により作柄は悪く、入荷量は前年同期を5%下回った。 価格は、不況等による加工業務需要の低迷と、悪天候による品質低下により、前年同期を9%下回った。
ほうれんそう	岐阜県を中心に、北海道、茨城県、長野県、滋賀県からの入荷。 北海道、茨城県では長雨や日照不足の影響で作柄が悪く、中央集散機能が発揮されたものの、入荷量は前年同期を3%下回った。 価格は、各産地とも長雨等の影響から品質低下が見られ、全国的な品薄状態ながら前年並みとなった。
レタス	長野県を中心に、北海道、群馬県、兵庫県からの入荷。 各産地とも長雨や日照不足により作柄は悪く、入荷量は前年同期を9%下回った。 価格は、不況等による加工業務需要の低迷により、入荷減ながら前年並みとなった。

【果菜類】	
きゅうり	<p>福島県を中心に、京都府、愛媛県からの入荷。</p> <p>各産地とも長雨と日照不足から作柄が悪く、入荷量は前年同期を17%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により前年同期を31%上回った。</p>
なす	<p>京都府を中心に、徳島県、滋賀県、高知県、奈良県からの入荷。</p> <p>各産地とも長引く梅雨による日照不足から作柄が悪く、入荷量は前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により前年同期を11%下回った。</p>
トマト	<p>北海道を中心に、岐阜県、京都府、三重県、奈良県からの入荷。</p> <p>主力の北海道では日照不足の影響から作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により、入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、全国的に品薄状態のため前年同期を9%上回った。</p>
ピーマン	<p>大分県を中心に、兵庫県、茨城県、宮崎県からの入荷。</p> <p>多くの産地において、生育初期の曇天や低温によって作柄が悪かったが、入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、作柄不良によって下位等級の割合が多く、前年同期を10%下回った。</p>
【土物類】	
ばれいしょ (メーク含む)	<p>千葉県を中心に、青森県、北海道、茨城県、長崎県からの入荷。</p> <p>各産地とも長雨と日照不足により作柄が悪く、収穫期の降雨による作業遅れもあったことから、入荷量は前年同期を24%下回った。</p> <p>価格は、全国的な品薄状態が続いているため、前年同期を81%上回る結果となった。</p>
たまねぎ	<p>兵庫県を中心に、北海道、佐賀県、京都府、長崎県からの入荷。</p> <p>各産地とも日照不足等により作柄は悪かったものの、高い需要による前進出荷から、入荷量は前年同期を22%上回った。</p> <p>価格は、人参やばれいしょが全国的な品薄状態の中で需要が集中し、入荷増ながら前年同期を47%上回った。</p>
【その他野菜】	
生しいたけ	<p>徳島県を中心に、広島県、和歌山県、岡山県からの入荷。</p> <p>広島県、岡山県での増産以降は安定した入荷状況であり、入荷量は前年同期を4%上回った。</p> <p>価格は、不況による上位等級の需要が低迷しており、前年同期を11%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスみかん	<p>佐賀県を中心に、長崎県、和歌山県、宮崎県、高知県からの入荷。各産地とも資材高騰や需要の低迷から栽培面積を減少しており、入荷量は前年同期を27%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により前年同期を7%上回った。</p>
ふじ (サン含む)	<p>青森県からの入荷。</p> <p>前年が豊作だったものの、貯蔵品の品質低下から前進出荷を行ってきた結果、産地在庫が減少し、入荷量は前年同期を27%下回った。</p> <p>価格は、下位等級の割合が多かったが、入荷減により前年並みとなった。</p>
桃	<p>山梨県を中心に、和歌山県、長野県、福島県、岡山県からの入荷。各産地とも長雨と日照不足により作柄が悪く、入荷量は前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は、不況による需要の低迷に加え、長雨により食味が低下したことから、入荷減にもかかわらず前年同期を5%下回った。</p>
デラウェア	<p>山梨県を中心に、山形県、大阪府、京都府、島根県からの入荷。</p> <p>6月の好天により、前月まで主力だった島根県の切り上がりが早かったものの、他の後続産地も前進出荷気味で、産地の切替えがスムーズにいったことにより、入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、長引く日照不足から下位等級の割合が多く、前年同期を12%下回った。</p>
アールス	<p>京都府、静岡県を中心に、高知県、愛知県からの入荷。</p> <p>各産地とも加温用重油の高騰以降は生産面積を減少しているものの、中央集散機能の発揮により、入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、不況による需要の低迷から前年同期を10%下回った。</p>
アンデス	<p>山形県を中心に、茨城県、福井県、滋賀県からの入荷。</p> <p>各産地とも前月までの好天による前進出荷から切り上がりが早く、入荷量は前年同期を23%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により前年同期を16%上回った。</p>
大玉スイカ	<p>石川県、鳥取県を中心に、長野県、山形県、愛知県からの入荷。</p> <p>各産地とも資材高騰や高齢化から生産面積を減少しており、入荷量は前年同期を24%下回った。</p> <p>価格は、長雨や低温による需要の低迷から、入荷減にもかかわらず前年同期を17%下回った。</p>